

2019年度 声楽「歌唱表現特別研究」
第6回 望月 哲也 特任准教授

1. 日 時 : 2019年6月3日(月)17時00分～18時30分
2. 場 所 : K号館 603教室
3. 対象学生【必修】 : 大学院声楽研究室 1・2年生
大学専攻科声楽専攻生
大学「オペラ特別研究AⅡ」・「歌曲特別研究AⅡ」受講生
4. 講 師 紹 介 : 望月 哲也 特任准教授

他聴講学内のみ可

東京都出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽科修士課程オペラ科修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞を受賞。同声会主催の「卒業生演奏会」及び、芸大定期「新卒業生紹介演奏会」に出演。大学院在学中にNTTドコモより奨学金を授与。

二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了。修了時に最優秀賞、及び川崎静子賞を受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。2005年からオーストリア・ウィーンに留学し、2009年6月までウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽を積んだ。(裏面に続く。)

5. 講 義 概 要 :

香川 梨佳(大4)

G. Bizet 作曲 「Carmen」 "Habanera"

芳賀 健一(大4)

R. Schumann 作曲 「Die beiden Grenadiere」

永田 雅子(大専)

R. Hahn 作曲 「Mai」

(望月哲也のプロフィール続き)

東京文化会館新進演奏家オーディション合格。デビューコンサートに出演。第35回日伊音楽コンクール第3位入賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位入賞。第70回日本音楽コンクール第2位入賞(オペラ・アリア部門)。

『魔笛』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』『椿姫』『愛の妙薬』『セヴィリアの理髪師』『こうもり』などのオペラ・オベレッタに出演。近年『ボッペアの戴冠』『デイドとエネアス』『エウリディーチェ』などのバロックオペラから『ナクソス島のアリアドネ』『サロメ』『エジプトのヘレナ』(日本初演)、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』などのドイツオペラなど、多くのオペラ作品に出演し、いずれも高評を得る。2006年4月、二期会とハンブルグ州立歌劇場との共同制作によるモーツァルト『皇帝テイトの慈悲』表題役(演出:P.コンヴィチユニー、指揮:H.スダーン)における歌唱・演技は新聞・雑誌等で高い評価を得た。また『幻想のルチア』(ドニゼッティ作曲『ランメルモールのルチア』ハイライト上演)に参加し、新たなレパートリーにも取り組んだ。2008年3月、ポーランド・レグニツァ市立劇場にて『魔笛』タミーノでヨーロッパデビュー。同年8月、オーストリア・シュタイアー音楽祭『蝶々夫人』ゴローで出演。2009年11月、東京二期会『カプリッチョ』R. シュトラウス作曲)に若き音楽家フラマン、2010年3月、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ラ・ボエーム』ロドルフォなど絶賛を博している。同年10月、新国立劇場『アラベッラ』(新制作)エレメル伯爵、2012月『トリスタンとイゾルデ』(新制作・大野和士指揮)牧童など注目の公演への出演、その後も『サロメ』ナラポート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムス』ホレーヌ・アダムス等で公演成功への一端を担った。2011年11月には二期会『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオに出演。2013年1月、新国立劇場『タンホイザー』ヴァルター、4月『魔笛』タミーノに引き続き、6月『夜叉ヶ池』(世界初演)見で出演予定。2012-2013 シーズン日本人最多の登場回数を誇る。びわ湖ホールにはこれまでに数多く客演しており、特に2013年のワーグナー『ワルキューレ』ジークムント役ではよりドラマティックな役柄へ挑戦し成功を収めている。NHK ニューイヤー・オペラコンサートなどにも連続して出演し、引く手あまたの活躍で多くのファンを魅了している。

宗教曲、声楽付き交響曲の分野でも評価は高く、バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」のエヴァンゲリスト、ヘンデル「メサイア」、モーツァルトやヴェルディなどの「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン「エリア」「パウロ」「讃歌」など、そのレパートリーは30作品以上にもわたり、日本国内の多くのオーケストラ、著名な指揮者(W.サヴァリッシュ、V.アシュケナージ、H.J.ロッチュ、G.ベルティーニ、D.オーレン、C.ミョンフン、小澤征爾など)と共演し、いずれも高い評価を得ている。近年はマーラー「大地の歌」やシューベルト「グレの歌」などの大編成の楽曲にも挑戦し、レパートリーの幅は更に広がっている。2000年にはドイツの4都市、アメリカ・ハワイにて、バッハ「ロ短調ミサ」のソリストとして招聘された他、2006年、オーストリア・ザルツブルグの大聖堂にて、モーツァルト「ハ短調ミサ」のソリストとして招聘される。

2006年2月、津田ホールの委嘱作品 演劇的組歌曲「悲歌集」を世界初演、続く再演でも高評を得た。2008年ウィーン楽友協会での「第九」演奏会に出演。王子ホールでの「Wanderer(さすらい人、旅人)」リサイタルシリーズでは、シューベルト「美しき水車屋の娘」やマーラー、ヴォルフ、R.シュトラウスの歌曲の世界を深く探求して好評を博している。ドイツリート以外にも、オペラ「ウェルテル」のハイライト上演や、日本歌曲も取り上げ、幅広いレパートリーで聴衆を魅了している。

CDは「Il mio tesoro」、「Amarilli」に続き、2011年7月25日、第三弾「ひそやかな誘い〜R.シュトラウス歌曲集」をリリース(マイスター・ミュージック)。

2011年より活動開始した、豊麗な美声で注目の男声オペラユニット“IL DEVU イル・デーヴ”も話題沸騰で、レジデンス・アーティストとしてハクジュホールでの定期的なコンサートをはじめ、各地でコンサート活動を繰り広げている。2013年にはCDが日本コロムビアから発売される。

日本国内では鈴木寛一に師事。海外では Arrigo Pola, Ernst Haefliger, Maksimilijan Cencic, Mimi Freissler, Walter Moore 各氏に師事。特に Haefliger 氏には最後の弟子として死の直前まで師事していた。

大阪音楽大学特任准教授。聖徳大学講師。二期会会員。